

上町台地今昔タイムズ vol.1 ～ 20 目次



vol.1 2013 年 秋・冬号

鉄道史から垣間見える、近現代・大阪での都市拡大

大阪のなかの上町台地、上町台地から広がる大阪

■最初はまちはずれに造られた、鉄道と駅〈1面〉

明治時代の大阪近傍図（明治19年製版、明治31年修正）
生駒山地まで見渡せた田園風景／1926（大正15）年開業の上本町駅（大軌ビルディング）

■大阪の縁辺にあった鉄道と駅に向かい、 広がりはじめたまち

1914（大正3）年発行の大阪市内詳細図



■身近だった田園風景を遠ざけていく、鉄道と市街化 〈2面〉

1955年（昭和30）年発行の大阪市街地図
電化直後の城東線鶴橋駅、駅周辺の空が広い（1933年頃の絵はがきから）
森ノ宮 - 大阪城公園間の東側にある車両基地

■どこまでも伸びる鉄道、止めどもなく続く市街化

●昔の車窓風景の 思い出



vol.2 2014 年 春・夏号

浪花の町衆が親しんできた 近郊の豊かな自然と雄大な景観

■歩いていけた！ 見晴らせた！近世の郊外〈1面〉

江戸時代末「浪花百景」
「錦城の馬場」(国貞画) ／「産湯味原池」(芳雪画) ／「河堀口」(芳雪画) ／
「御勝山」(芳雪画) ／「天保山」(芳雪画)

明治時代の「大阪近傍図」

●「浪花百景」に描かれた行楽地や景勝地など

■都市近郊に出現した近代的リゾート 〈2,3面〉

1932（昭和7）年「大阪府鳥瞰図」
「大阪府鳥瞰図」(吉田初三郎作／大阪市立中央図書館所蔵)
甲子園浜海水浴場（1932〈昭和7〉年）／浜寺海水浴場（大正～昭和初期）



●昭和20～40年代 懐かしい遠出の思い出

■戦後もまだ楽しめた大阪平野のなかの自然空間

1946（昭和21）年「大阪府全図」
生駒山上遊園／昭和の初め頃のいも掘り遠足（1932〈昭和7〉年）／小学生も参加したウサギ狩りの様子／宝塚にて（1956〈昭和31〉年／木津川）の八幡水泳浴場にて（1958〈昭和33〉年頃）

■まちなかから遠ざかる郊外と自然空間都市の未来は〈4面〉

1955年（昭和30）年発行の大阪市街地図
生駒山麓まで見渡せた玉造稻荷神社舞台（1959〈昭和34〉年）／玉造稻荷神社境内にあった舞台（1871〈明治4〉年再建）／高津宮の舞台にて／大浜公園にあった堺水族館の前で遠足の記念撮影（1955〈昭和30〉年頃）／大浜公園にあった堺水族館の前で遠足の記念撮影（1955〈昭和30〉年頃）／二色ノ浜の岩場にて（1959〈昭和34〉年）／水が澄んでいた二色ノ浜海水浴場（1958〈昭和33〉年）



vol.3 2014 年 秋・冬号

なじみ・行きつけ・御用達 百貨店・商店街との思い出から垣間見る暮らしとつながりの変化

■豊かなつながりも垣間見える、 百貨店・商店街との思い出 〈1面〉

戦後から1970年代、上町台地の子どもたちの思い出
大丸呉服店 新館御案内（大阪市立中央図書館蔵）／北浜の大阪三越百貨店、モダンな建物が人目を引いた（絵葉書より）／天満橋に移転した松坂屋の屋上遊園（昭和41年／一般財団法人J・フロントリテイリング史料館提供）／昔の心斎橋筋（戎橋付近、絵葉書より）／大阪の中心道路、御堂筋に面して大丸とそごうが並び（絵葉書より）／近鉄上本町店5階の大食堂（近畿日本鉄道株式会社提供）／松坂屋は昭和41年まで日本橋で営業（絵葉書／大阪市立中央図書館蔵）



■まちの未来への希望も映す、 80～90年代の百貨店・商店街での思い出 〈2面〉

1980～90年代、上町台地の子どもたちの思い出
かつて松坂屋だった高島屋東別館内には「高島屋史料館」も／平成17年新築のそごうの建物は、今は大丸心斎橋店北館／日本橋にあった松坂屋の建物は、現在、高島屋の東別館となって健在／天満橋の松坂屋が撤退した後は、京阪シティモールとして現在も営業／近鉄劇場跡に出来た複合施設上本町 YUFURA に新歌舞伎座が移転
●客とお店の顔が見え合う「行きつけ」「なじみ」なまちなか暮らし

■小さな地域の集合体でもある上町台地と大阪のまち



vol.4 2015 年 春・夏号

文画人・堤槇次郎が見つめた大阪 上町台地をかたどった水辺の風景と土地の記憶

■水辺から大正・昭和の大阪を描く 〈1面〉

「月」〈大正7（1918）年〉
「淀屋橋南詰」〈大正5（1916）年〉
「東横堀 丸町の浜にて」〈大正4（1915）年〉
「明治晩年の小橋 及付近」「大阪工廠（城東練兵場にて）」
〈昭和4（1929）年〉

●記録画家・堤槇次郎の歩み



■都市近郊に出現した近代的リゾート 〈2面〉

「猫閭川」〈昭和7（1932）年〉
「平野川 東成郡鶴橋町の北端（三枚橋）」〈大正4（1915）年〉
「亀の橋（平野川）」〈大正大正13（1924）年〉
「平野川 鶴之橋一丁北」〈大正5（1916）年〉
「明治41年 その頃の桃山駅（桃谷駅）付近の図」
「城東線 桃谷駅」〈大正8（1919）年）初期）

●「私の思い出」



vol.5 2015 年 秋・冬号

思い出の映画館と身近なまちの戦前・戦後

■大正～昭和初期 映画黎明期

空前の市街地開発と賑わいの中に誕生した映画館〈1面〉

◎玉造界限 東の心斎橋と呼ばれた玉造は映画館の街だった！／館内に響くは活動弁士の名調子！ ・大正時代に建てられた洋館風外観の 城東館／弁士席と楽団ボックスもある 城東館の内部／専属の音楽隊玉造界限・昭和初期の 日之出通商店街／しゃれた招待券や週報も発行 日之出館と玉造座 ◎鶴橋界限 新興地域 鶴橋にも映画館が続々誕生！ 昭和初期に開館した昭和館／昭和10（1935）年に改築開館した日の丸館

●当時の大阪とミニ映画史 ☆昭和8（1933）年頃の常設映画館

◎大正12年生まれ、北区在住の青空書房店主
坂本健一さんのイラストと映画館の思い出



■戦後 映画最盛期

幼い頃から青年期まで傍らにあった映画館街 〈2面〉

◎寺田町界限 私たちのまちも映画の黄金時代がやってきた！／映画館に通い詰めた青春もあった！ ・昭和25（1950）年、寺田町駅近くに開館した電気館／昭和42（1967）年頃の電気館入口 ◎玉造界限 戦後、焼け跡の街に、映画館再興の槌音！ 昭和23（1948）年頃の 城東館の内部／城東劇場は城南東映に ☆昭和30（1955）年頃の常設映画館

●私の思い出

玉造界限・鶴橋界限・寺田町界限・松屋町界限・天満橋界限・上六界限・今里界限

vol.6

2016 年

春・夏号

昔も今もなにわ名物「玉造黒門越瓜」物語

■江戸時代 大坂の東の境界で育まれた越瓜〈1面〉

錦絵「一心寺」浪花百景之内 大阪府立中之島図書館蔵

[名物誕生][漬物として手塩にかけられ愛された]
[船場の食事でも重宝された越瓜]

『新改正摂津国名所旧跡細見大絵図』の「名物名産畧記」1836（天保7）年 玉造稲荷神社蔵

■大正時代 ●雷（かみなり）干瓜 ●捨小舟（すておぶね）
●糠（ぬか）漬け・奈良漬け

『四季漬物鹽嘉言』小田原屋主人、1836（天保7）年 国立国会図書館蔵

■明治時代「畑場八か村の一つ吉右衛門肝煎地（きもいりち）から」

『大阪市中区芋名改正繪圖』（部分）1872（明治5）年国際日本文化研究センター蔵



■復活、玉造黒門越瓜 ◎越瓜栽培で地域の縁結び

鈴木伸廣さん 玉造稲荷神社禰宜（ねぎ）

[玉造稲荷神社で夏を告げる食味祭]

■なにわの伝統野菜 ◎伝統野菜は「食のもののさし」

森下正博さん なにわ伝統野菜応援団員

育てる輪／たねをまき みずをやり やっと めがでたよ／屋上菜園で
／立体菜園で／園庭で／町家の中庭で／家の前のプランターで／旬を
いただく、ツルつながり／食べるところまでひとつつながり●干してから調理 ●漬け物いろいろ ●和洋を問わず
●デザートにも

●なにわ伝統野菜 玉造黒門越瓜 栽培カレンダー

vol.7

2016 年

秋・冬号

伝説の生玉人形とたどるものづくりと文化の原風景

上町台地で今につながる、ものづくりの源流〈1面〉

■瓦とともにつくられた、土人形と生活文化 ■おがくずと反故紙が、大坂名物の人形に ■上町台地の体験が「おまけ（豆玩）」の原点

■子どもたちの遊びにもなった人形浄瑠璃 川崎巨泉が描いた生玉人形
誕生は江戸時代、芸能とものづくりの申し子「生玉人形」

天王寺区に生まれた日本画家・生田花朝の作品「春昼」

■「おもちゃ絵」の中で息を吹き返す人形たち ■庶民文化を背景に老若男女が楽しんだ ■上町台地の体験が「おまけ（豆玩）」の原点
宮本順三さんが描いた「浪花郷土玩具集」

◎庶民文化を背景に老若男女が楽しんだ

中村文隆さん（生國魂神社 筆頭権禰宜・天王寺区）



上町台地の時空に潜む「おもちゃ絵」世界再び〈2面〉

●ものづくりの傍らにおもちゃとお菓子のまち ●上町台地の路地遊び 姉さま人形 バイ（貝）竹ごま ●アイデア抜群のからくりおもちゃ ●張子人形の職人横町（?）もあった ●おもちゃに出会う、縁日のときめき ●受け継がれたユーモラスな味わい たこたこ人形 加藤清正虎のり

◎「駄菓子とおもちゃ」を通して成長する子どもたち／谷 澄夫さん（タニカトーイ社長、中央区） ◎子どもたちに地域の夏の楽しい思い出を 服部多嘉男さん（東筆振興町会会長、天王寺区） ◎内張子技法のお面づくりに生涯をかけて 房本武義さん（房本デザイン工芸、生野区） ◎消えていった、昔のおもちゃづくりと町工場 吉村健一さん（旭進ガス器製作所社長、生野区）

生國魂神社 ■多彩な芸能の交差点！ 四天王寺 ■縁起物とめぐる季節！

vol.8

2014 年

春・夏号

有為転変、世情によりそい願いを映しよみがえるお地蔵さんとまちの暮らしの縁起

■お地蔵さんと上町台地〈1面〉

境を守る辻の見張り役「まちや村の出入り口で災いを防ぐ」

・閻魔大王と地蔵の前で子らが縄で道を塞ぐ（『摂津名所図会』1796年）。

往来を結び無事を祈る「街道沿いで旅の安全を支える」

・矢田地蔵尊・西俊徳地蔵尊

六万体の伝説が息づく「聖徳太子の思いが受け継がれる台地」

地蔵祭の主役は子ども「まちなかで子らの安全を祈って」

・大坂近世の地誌「難波鑑」（1680年）の地蔵祭の図。

江戸時代の遊山・地蔵巡り「六地蔵巡り・四十八地蔵巡り」

安住の場は移されても「世につれ人につれ転変する運命」

・逢坂清水の融通地蔵尊

■路地の奥で息を吹き返すお地蔵さん〈2面〉

織田作之助が描いた風景、受難の時代を越えて



■新しい縁を結ぶ地蔵祭の再起動

現在を生きる人々の願い、コミュニティの再生へ ・將軍地蔵尊

●地蔵祭の今 ○からほり界限 路地のつながりを感じながら地蔵盆のナイトツアー ◎路地に招かれる貴重な体験！ 渡辺尚見さん（からほり倶楽部）／◎外国の人も興味を示す地蔵盆 六波羅涼さん（からほり倶楽部） ○東上町 方除地蔵尊 地蔵祭の復活から子らのふるさとづくりを ◎未来に向け、祭で輪を広げたい 服部多嘉男さん（東筆振興町会会長）／◎地域の未来を見据えながら！ 菅野泰紀さん（東筆振興町会役員） ○五条小学校 地域の人の心を集めて將軍地蔵の子ども盆踊り ◎縁ある人たちの思いとともに 神田晃治さん（將軍地蔵尊保存会総代） ○一心寺「まちの広場」に人が集う地蔵盆フェスティバル ◎誰もに開かれた新しい祭を！ 高口恭行さん（一心寺長老）／◎一心寺的な多世代交流の場 高口真吾さん（一心寺シアター倶楽） ◎延命山 日限地蔵院 地域の人たちと連携しより賑わいのあるお祭に ◎地域に支えられて続く地蔵盆 西浦弘圓さん（延命山 日限地蔵院）

vol.9

2015 年

秋・冬号

はじまりは上町台地“知”を運ぶ本のまち・大阪の軌跡をたどる

■古代から続く「本のまち・大阪」〈1面〉

○古代～中世 海を渡り来たった万巻の書 大陸からの書籍が到着した地・上町台地 [和本の木版印刷]蔵書版も発行した学問所

○江戸期～明治初 本を求め人が集う書店 心斎橋筋には本屋がずらり・幕末の地誌『摂津名所図会大成』（『浪速叢書8』1928年所収）

く出版界「店には新刊本・古本・役者絵も 版元を兼ねる本屋も多数」「上町台地で編まれた百科事典」・寺島良安の書斎／蔵屋敷に全国の蔵紙 東横堀川周辺などに集まった紙屋／広がる読者層と貸本商法 人気本を顧客に届ける新しい仕組み／本をめぐる 職人の世界 版を彫る、紙に摺る、本に仕上げる・弘化3（1846）年刊『大阪商工銘家集』

●本のまち・大阪 Chronicle 2面に続く



○明治 木版印刷から活版印刷へ 五代友厚・本木昌造と大阪活版所○大正～戦前 若き直木三十五 本に出会う 少年の人生を変えた？ まちの貸本屋「女性を対象にモダンな情報発信プラトン社創始の地」／ヒーローに大熱狂 立川文庫 青少年を虜にした文庫本シリーズ／司馬遼太郎少年館の蔵書を読破 糧となった、図書館で本を乱読した日々 ○戦後 松屋町から始まった手塚治虫の世界 赤本漫画から天才が羽ばたき劇画も生まれた ○～平成 本のまち・大阪の明日は何処に 21世紀の開かれた“知”を編むため

●大正13年頃の大坂・[大阪市パノラマ地図]（美濃部政治郎、大正13・1924年）「社会動向を科学的に捉える大原社会問題研究所と府立夕陽丘図書館」

●私の思い ◎大阪は本を愛する人たちの迷宮都市だった 橋川節也さん（大阪大学教授） ◎ことばの森で、心と身体をつなぐ力を育む 塙狼星さん（空堀ことば塾主宰） ◎新しい世界との出会いの場、これからも！ 中越慈子さん（天王寺区五条地域の佳人）

vol.10

2014 年

春・夏号

稀代のなにわ名所案内人 暁鐘成と再びめぐる上町台地 食が結ぶ高低・聖俗交わりの風土

幕末・大坂を舞台に活躍した博覧強記の絵師・戯作者 暁鐘成〈1面〉

○『摂津名所図大成』ほかより 世に名高き湯豆腐に憩う高津の湯豆腐 高津といえど、豆腐の値は低き・和国第一品の豆腐に餡かけ・『摂津名所図会大成』に描かれた高津の湯豆腐屋店内 無病息災の願いをかけて ○庚申昆布と菰蓐 庶民が集い願いを込めて食した・庚申昆布・庚申菰蓐 賑わう門前楽しみは名物料理 ○生玉さんの田楽と蓮飯 蓮池周辺は賑わいも目覚ましく

●私の思い ◎今につながり、求められる庚申昆布 梅須磨裕藏さん（庚申昆布梅須磨商店店主） ◎今も昔も、食を介した交流の場として 小谷真功さん（高津宮宮司）



出会いと別れの証、彼岸と此岸のあわいに生まれる食と風景へ〈2面〉 暁鐘成図の「浪華名所獨案内」（上町台地周辺で切抜き、赤丸付加）大阪市立図書館デジタルアーカイブより

見送りの宴と浪花名産 ○二軒茶屋 東へ向かう旅の別れの場・大手饅頭・名産黒門の瓜 料理と眺望 ○料理と眺望 夕景を愛でつつ料理を味わう ○浮瀬 芭蕉らも訪れた名高き料亭 ○福屋宴席 名刹近くの有名料亭 台地の崖下に名水の地と名物米菓子 ○ニッ井戸 岩おこし 大坂名物になった米のお菓子

●私の思い ◎往来の地で生まれた食と交流 鈴木伸廣さん（玉造稲荷神社禰宜） ◎蕪からはじまった縁を育む 難波りんごさん（天王寺蕪の会事務局長） ◎人を惹きつける、食のバックストーリー オダギリサトシさん（ツーリズムプロデューサー）





難波宮前夜から天下の台所を経て大大阪とその後へ 足下に眠る“上町台地バレー”、まちづくりの魁・ものづくりの都が姿を現す

■古代の都にもものづくりの谷があった〈1面〉

物流と往来の拠点でものづくりも盛んに

玉づくり／陶器づくり／貨幣の鑄造

◎発掘から知る、まちの広がりともものづくりの系譜

佐藤 隆さん（大阪市教育委員会文化財保護課）

●6～7世紀前半の上町台地北部の古地理ともものづくり

●発掘！上町台地ものづくり年表 古代の層・中世～豊臣期の層

■門前町・寺内町と秀吉の大坂城下をつくった職人たち

上町台地で焼かれた大坂城と城下町の瓦／鍛冶による道具づくり
は城下の建設に不可欠

■天下の台所を支えた技術と文化の高密度な共創空間〈2面〉

刀づくりは複合的な産業／時代に応じ鑄物の工房は市街地の外へ／墨づくりの
油煙受皿が大量出土／房具は都市文化の必需品／住友銅吹所は日本最大の銅
精錬所／東横堀川近傍でも生産／寺島家の広大な請地 瓦屋町一帯に関連業
種が集積／熱してつくる赤色顔料ベンガラ／細工物づくりはまちなかの各所で

●発掘！上町台地ものづくり年表 近世・徳川期の層・近現代の層

●近年発掘された近世ものづくり工房跡

■大大阪から現代・未来の“上町台地バレー”へ

◎ものづくりに馴染んだまちの路地で 藤田富美恵さん（童話作家）

◎統合力を育む文化こそ、都市再生の「本質」 池永寛明さん（大

阪ガス エネルギー・文化研究所所長）◎ものづくりの技術が集積する

地域の強み 吉村健一さん（旭進ガス器製作所課）



上町台地から見はるかす博覧会“百年の計”で築いた大阪とは

■1897年（明治30）第1次大阪市域拡張〈1面〉

■1903年（明治36）第五回内国勧業博覧会

四天王寺から会場を眺望／エレベーターを備えた高塔から築港も
一望／電気時代の幕開けを告げたイルミネーション

“科学万能時代”の風潮に警鐘の意も込めて／生活を一新する科学技術も／万国
博の趣をもった国内博／内国博最大の来場者と呼んだ数々の余興・娯楽、遊戯施
設／出現した近代都市の祝祭空間

「第五回内国勧業博覧会全景明細図」（田井久之助 1903）

◎大阪の市域拡張と内国博覧会

古川武志さん（大阪市史料調査会調査員）

世紀を駆けて、上町台地は大阪再生の揺り籠

“博覧会の台地”だった！？〈2面〉

内国博の会場跡地は、今に続く公園・動物園と新世界に！

◎たぐいまれなる都市周縁の開発 加藤政洋さん（立命館大学文学

部教授）◎内国博覧会後に花開く映画産業 武部好伸さん（作家）

●上町台地で開催された博覧会

■1925年（大正14）第2次市域拡張と「大大阪」

■1945年（昭和20）大阪大空襲焼け跡からの復興

◎復興大博覧会と夕陽丘

柳原 勝さん（てんのうじ観光ボランティアガイド協議会員）



“超時空遺産”上町台地 博覧会時代 モダン大阪に煌めいた若き才能たちの光跡

1900年 青年実業家・荒木和一（28歳）、パリの万博で、ロイ・フラー
の光の舞に魅了される／1903年 金尾種次郎（24歳）大阪での内
国博に向け「大阪名勝図会」を編集す！／1903年 赤松麟作（25歳）
ら大阪の画家たち、内国博に大いに刺激を受ける〈1面〉

1883年頃 晶子（4歳）家族と大阪に遊ぶ・与謝野晶子「私の生ひ立ち」／
1903年頃 吉助牡丹・大阪博物館・大阪名勝図会」金尾文淵堂／1903年
頃 幼児記憶にも鮮明な内国博・稲垣定穂「ノアトン氏の月世界」

◎苦しい時代の私を支えてくれた、雑誌「上方」の通読

肥田皓三さん（元関西大学文学部教授）

●関連人物エピソード年表

東西文明・文化のカオスからモダン都市大阪の結晶が…〈2面〉

1912年 荒木和一（40歳）、新世界の開発に尽力する！／1912年

金尾種次郎（33歳）、本づくりの粋を凝らす！／1913年 足穂少年
（12歳）、全国発明品博覧会場で、飛行機の実物に心奪われる

1912年 少年が想いを寄せたルナパーク・稲垣定穂「ノアトン氏の月世界」
／1909年頃 大阪市は、一つの有機体・木下空太郎「大阪」

モダンの極み“大大阪”から歴史・文化・風土の再評価へ…

1923年 直木三十二（32歳当時の名）、大阪で日本一モダンな雑
誌の編集に携わる／1925年 大大阪博覧会が照らし出したもうひと
つの眼差し

1925年 誇るべき史跡が失われている・南木芳太郎「名物名所の大阪」

◎苦すべての世代の心を捉えた、無限の宇宙と未来への夢

嘉数次人さん（大阪市立科学館学芸員）



上町台地から想いを馳せる、“共”の知としての災害史と文化

1934年 室戸台風 大災害に「上方」が緊急特集号を発行／大坂城と地震・
災害／1854年 安政大地震・大津波／1885年 淀川大洪水／1934年 室戸台風 瓦版、写
真が伝えた、津波や風水害の脅威／1934年 室戸台風 木造校舎倒壊で多
大な犠牲者／1912年 南の大火／1950年 ジェーン台風 社殿焼失、再建するも強
風に倒壊／1854年 安政大地震・大津波 津波の犠牲者を供養して建碑／津
波への備えの必要性を伝える／1934年 室戸台風 四天王寺の五重塔、崩
壊す／1934年 室戸台風「大阪市風水害誌」を編集／建築誌が調査と特集
号を発行 -／1923年 関東大震災 社殿焼失、プラトン社の「女性」大震災
の特別編集号発行／建築誌が調査と特集号を発行 -〈1面〉

●上町台地災害史

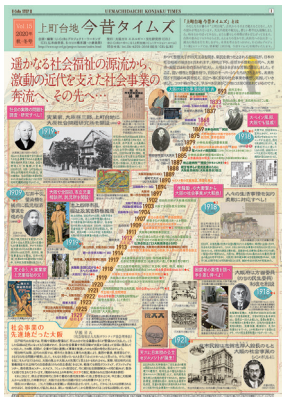
◎南木芳太郎コレクションと大阪の災害

北川 央さん（大阪城天守閣館長）

減災文化を耕す 地域に根差した“共”の場づくり 〈2面〉

●北大江公園 住民による地域づくりの舞台 ◎公園を核に関係づくりの
試み 吉見孝信さん（北大江地区まちづくり実行委員会委員長）◎都心にコミュニケーシ
ョンを 三木啓正さん（都市空間企画研究所代表）／●高津宮 伝説の井戸を地域とと
もに復活！／◎井戸掘りから生まれる縁に感謝 小谷真功さん（高津宮宮司）／●
ももに広場 防災力向上にも役立つ地域広場の多様な活用◎まちの風
景を豊かにしていきたい 岸村 修さん（ももに広場管理運営会会長）／●松野農園 食
と農を基盤にした交流と多文化共生 ◎農と食の体験から多文化共生へ
Andika Diaparさん（IKUNO サラダボウル・プロジェクト代表）◎ゆるやかなつながりの
場づくりを 吉岡 徹さん（出発のなかまの会理事）／●ゲストハウスとカフェと庭 コローム
おっちゃんたちを先生に井戸掘りの真価を探究 ◎釜ヶ崎の知恵と技
で生き返る！ 上田假奈代さん（詩人・コラムニスト）

●上町台地災害史大阪市ハザードマップ



遥かなる社会福祉の源流から、激動の近代を支えた社会事業の奔流へ、その先へ…

社会の実際の問題を調査・研究すべし！ 実業家、大原孫三郎、上町台地に
大原社会問題研究所を開設／支え合う、大実業家と児童福祉の父！ 石井
十次、愛染橋を拠点に孤児救済事業を進める／大阪で全国初、市立児
童相談所、託児所を開設！ 池上四郎市長福祉政策を積極推進／スペイン
風邪、大阪でも猛威！／「米騒動」の大衝撃から大阪の社会事業が大転換！ 人々
の生活事情を知り柔軟に対応すべし！／困窮者の実情を調べ手を差し伸べ
よ！ 大阪府は方面委員（のちの民生委員）制度を創設／天六に日本初の公
立セツルメントが誕生！ 実業家、大原孫三郎、上町台地に大原社会問題
研究所を開設／社会の実際の問題を調査・研究すべし！ 北市民館は志賀
志那人館長のもと大阪の社会事業のシンボルに／〈1面〉

●大阪の社会事業関連年表

◎南社会事業の先進地だった大阪

早瀬 昇さん（社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長）

この地で次世代を育む、社会事業の原点再び 〈2面〉

特定非営利活動法人 Silent Voice ◎子どもたちが「自分らしく」生き
るために Silent Voice 代表 尾中友哉さん／空堀ことば塾 ◎「ことば」
をキーワードに世界を広げる 空堀ことば塾主宰 塙狼星さん／特定非営利
活動法人 クロスベイス ◎差別と貧困をなくし、ともに生きる社会の
ために クロスベイス代表 宋 悟さん／こども食堂天使のミール go-on
◎子どもたちが「自分らしく」生きるために 天使のシフォン go-on オー
ナー 藤井 恵さん

●戦後 大阪ではじまった市民活動関連年表



聖と俗のあわいで安寧を願う上町台地相撲パノラマ

- 勸進相撲は新地振興のために〈1面〉
- 奉納神事と娯楽の相撲
- 寺町と相撲の深い縁
- 博覧会跡地に生まれた大阪国技館

『摂津名所図会』に描かれた勸進相撲の熱狂
「大阪角力人形」がつなぐもの

- 大人も魅了した角力人形のおもちゃ絵
・大阪角力人形・大阪角力起上り・大阪角力毛人形

◎大阪のまちの形成と「相撲」 飯田直樹さん（大阪歴史博物館学芸員）



“相聞”の台地を旅する 言葉の力で呼び覚ます歌枕のコスモロジー



- 万葉の过客 難波津を行き交う心と心〈1面〉
上毛野牛甘・田辺福麻呂・丹比部國足・大伴家持
- 鉄幹と晶子 近代を切り拓いた魂の邂逅
与謝野晶子・与謝野鉄幹
「大阪名勝図絵」第一号の「菰菊庵」の挿図（1903年、金尾文淵堂、提供：肥田皓三氏）
- 西行と能因法師 本歌取りで時を駆ける原風景
西行〈新古今和歌集〉・能因法師〈後拾遺和歌集〉
津の国、難波の蘆原の光景に見入る西行、「西行物語絵巻」より、
国会国会図書館デジタルコレクション
- 定家と百人一首 掛詞・縁語で宿命を受け止める
元良親王〈小倉百人一首（後撰和歌集・拾遺和歌集）〉・皇嘉門院別当
〈小倉百人一首（千載和歌集）〉「小倉百人一首」（菱川師宣画、1680年）より、国立
国会図書館デジタルコレクション

台地のそこここに刻まれた相撲の足跡〈2面〉

江戸中期の百科事典と相撲／薄病院「タニマチ」のモデル!？／盛んだった村相撲

◎生涯を相撲と社会のタニマチとして 中村正廣さん（医療法人共生会中村クリニック院長）◎高砂部屋の大坂場所宿舎として50数年 高辺晶啓さん（久成寺住職）◎昔から相撲に由縁が深い高津宮界限 小谷真功さん（高津宮宮司）・安井徳子さん（高津宮職員）◎お相撲さんは、上町台地に春を呼ぶ使者でした 鈴木忠子さん（スズキ薬局 薬剤師）・鈴木芳郎さん（スズキ薬局 薬剤師）◎生野の相撲集団の伝統と力士墓 吉村健一さん（旭進ガス器製作所社長）

●相撲始祖と力士に由縁 三光神社 ●まちにある土俵 ●上町台地に眠る力士たち（四天王寺・遊行寺（円成院）・一心寺・成恩寺（東福寺大阪別院）



再生の物語を求めて 台地の門前から今に続く語りの世界



- 中世、宗教都市だった四天王寺〈1面〉
苦しむ人たちを迎え入れた救済の地
- 民衆の語り芸能、説経節 遊芸人が運んだ「救いの物語」
そこは復活への道行を象徴する場に
「一遍聖絵」に描かれた中世の四天王寺
絶望から救いの光が射す場所へ「しんとく丸」の系譜
漂泊の末に辿り着いた再生の地「さんせう太夫」の系譜
父を探し高野へ向かう「かるかや」の系譜
熊野に続く聖なる道筋「小栗判官」の系譜

■ 語りの力再び、喜怒哀楽を分かち合う

隆祥館書店 ◎物語の力で母と子のつながりを育む
ママと赤ちゃんのための集い場づくり 二村知子さん（隆祥館書店店主）
大大阪芸術劇場 ◎路地の暮らしの中から新しい物語を紡ぐ 楽しく遊びながら、大阪の演芸のルーツ「俄」の再現を目指す 藤田富美恵さん（児童文学作家、朝日カルチャー・心斎橋大学講師）

一心寺日曜学校 ◎講話とともに語りの芸が心に深く響く 来訪者の人生の安らぎの広場でありたい 高口真吾さん（一心寺文化事業財団理事）
高口恭行さん（一心寺長老）・横瀬尚隆さん（一心寺三千佛堂主任）

一般社団法人 てづくり紙芝居館 ◎紙芝居は、創作と語りと場との総合文化
使いながら伝承したい、紙芝居に込められたそれぞれの物語 高市香緒里さん、山口文子さん、大塚珠代さん、三本章代さん（一般社団法人 てづくり紙芝居館）

かの国文・民俗学者にして歌人折口信夫＝釋迢空を生んだ 野生の都市・大阪と上町台地をゆく



- 古代の民俗生活の実感的把握で日本文化研究に新境地を開いた折口信夫（釋迢空）〈1面〉
釋迢空の大阪詠でたどるふるさとのまちの情景
○千日前 芸能者へのまなざし ○合邦閻魔堂 あやしき閻と光
○天王寺中学校 あかしの花 ふりたまる ○舍利寺 古代の道を逍遙する ○四天王寺 常世の国と西方浄土 ○十日戎 幼な心に響く出来事
◎“野生”の都市・大阪と折口信夫
都会性と野性が複合する大阪の可能性は／芸能者に向けられた特異なまなざし 田野 登さん（大阪民俗学研究会代表）
●折口信夫年譜

■ 少年を魅了した風土から折口学へ〈2面〉

1 織田作之助と台地の原風景 2 折口と司馬遼太郎の通学路
3 金尾文淵堂と若き折口信夫 4 放課後に訪れた寿法寺

折口学の世界

1『古代研究』2「まれびと」3 小説『身毒丸』4 小説『死者の書』5 歌集と万葉研究 6 芸能論と『翁の発生』

◎上町台地と折口信夫の原風景 少年折口信夫が歩いた跡を訪ねて 高橋俊郎さん（オダサク倶楽部代表）

◎折口学の源泉は古代との交歓 折口信夫は神の声を聴く耳を持っていた？ 北辻 稔さん（オダサク倶楽部代表）

その眺め、上町台地曼荼羅さながら『上方』に刻まれた、まちの相貌と魂を次代へ



雑誌『上方』を編集・発行した上方・大阪の郷土研究のパイオニア 南木芳太郎〈1面〉

雑誌『上方』の表紙 第3号 天王寺研究号（1931年）・第11号 大阪城研究号（1931年）・第14号 大阪町人号（1932年）・第22号 道頓堀変遷号（1932年）・第26号 統明治文化号（1933年）・第46号 大風水害号（1934年）・第50号 大阪今昔図絵（1935年）・第51号 続大阪今昔図絵（1935年）・第56号 大阪探墓号（1935年）・第60号 上方忠孝号（1935年）・第68号（1936年）・第69号 自慢号（1936年）・第70号（1936年）

◎カミガタ+1・0（プラスワン） 橋爪節也さん（立命館大学文学部）

『上方』で出会い交わり広がる、大阪・上町台地の“知”〈2・3面〉
「上町台地 今昔タイムズ」の編集と『上方』【災害の記録】【郷土玩具の背景】【お地蔵さんとまち】 ■北の端が上町台地の重要地に ■工都大阪の発展と市街地化の進展 ■井原西鶴墓と近松門左衛門墓 ■落語の舞台としての上町台地 ■四天王寺舞楽と芸能の歴史 ■上町台地と芸能の世界 ■夕陽丘付近にあった 三大料亭

◎曾祖父・南木芳太郎の足跡をたどって 神官の家に生まれ、島之内界限で育つ／本屋の店員から、文学への関心も深まる／古典籍の南木コレクション形成と現存する目録 南木ドナルドヨシロウさん（南木芳太郎曾孫）

●私が『上方』から得たもの ◆南木コレクションと私と上町台地 北川 央 九度山・真田ミュージアム名誉館長（大阪城天守閣前館長）◆見せ物の伝統と映画黎明期の道頓堀と 武部好伸 作家・エッセイスト ◆郷土玩具に見られる民俗学的な系譜も 田野 登 大阪民俗学研究会代表 ◆現代の発掘事例につながる内容も豊富 佐藤 隆 大阪市教育委員会事務局総務部文化財保護課 主任学芸員 ◆過去の災害とともに五重塔崩壊の詳細も伝える 飯田直樹 大阪歴史博物館学芸員 ◆四天王寺さんの奥深さと「落語 天王寺詣り」 足代健二郎 猪飼野探訪会代表 ◆「天王寺研究号」との関わりと肥田先生の教え 高橋俊郎 元大阪市立中央図書館副館長・オダサク倶楽部代表 ◆当時の重厚な執筆陣と広範な内容に感嘆 明尾圭造 大阪商業大学教授 ◆昭和初期の「俄」の様子が知られる貴重な資料 藤田富美恵 童話作家 ◆「かみがた」が大好きで、憧れの郷土史家になった夫 肥田美知子（敬称略）

今こそ、再び『上方』を携えて、未来を駆けよう〈4面〉

◎南木日記との出会いと郷土研究のバトン 古川武志さん（元大阪市史料調査会調査員）

●『郷土研究 上方』年譜